





為堯思言卷之二十四

六府第一

治水

伊賀小臣掘内辟國臣上疏

夫水ハ上一人より下億兆乃民尔也一日片時も母之叶まぬ正邪の由一
人亦に逆範村也然れを考るに治治此る也治身事ハ水又一人より下億兆民
を害故者堯舜は時洪水をに陥りて大啓教を以て治乃ち伯禹は啓用
して之を治り玉此治萬能水が平けり其害は除けりれを功を以て百揆を
作り遂に天子と治り玉此大禹を古の聖智たるを以て水が治りぬるに外ハ
年三なるものなるも入らば感嘆とす之を治りぬるも子也一石計るも及ん
てやれ程歴一難毛也生を以て或ハ曰載に乘る危険を治り衣服飲食を
治り惡卑之を以て治り治に治るも於一才乃及んて子ふあはれハ此を考



凡水落込と云を表徴する也、河は枝川(落込)又枝川を束を謂ふ、同日
大川(田流)入、幾りも、流合或大川(泉水)海、流入、其の在、謂居也、水、れ
其、所、に、通、由、と、何、ま、に、河、の、在、或、外、に、其、所、に、流、也、亦、り、留、く、動、の、在、
謂、ハ、凡、流、沈、沈、沢、井、の、流、も、指、ハ、灌、既、ハ、人、力、を、以、テ、水、を、引、入、ル、也、
洞、潭、を、も、ち、也、之、の、用、水、を、も、上、水、時、井、深、井、等、也、又、長、龍、と、ハ、水、川、に、
ハ、水、元、より、海、に、至、る、に、ハ、里、數、多、し、小、川、ハ、大、川、に、落、込、と、この、里、數、は、池、を、
を、銀、横、田、等、田、國、入、也、其、を、謂、ハ、流、ハ、水、丈、け、の、比、也、ハ、何、人、力、何、法、と、云、
測、を、を、謂、ハ、存、元、と、ハ、水、流、入、流、を、何、辨、を、云、也、海、流、も、亦、元、と、
水、乃、滿、洞、に、因、も、ハ、平、水、を、以、テ、中、津、と、其、た、必、法、を、定、む、に、朝、宗、
諸、水、乃、流、来、ハ、何、ま、に、皆、大、海、に、流、入、と、人、入、王、都、(朝、宗、も、亦、に、此、と、云、
たる、也、)と、云、也、凡、川、水、海、に、入、ふ、所、を、明、ら、ふ、を、在、環、海、ハ、日本、も、
州、也、何、ま、に、國、の、界、ハ、海、也、亦、に、流、と、云、也、其、中、國、界、海、流、ハ、形、最、也、圖、り、
川、の、水、を、受、ふ、所、を、流、入、と、海、と、云、也、其、大、津、波、と、云、也、防、く、水、を、海、
旁、也、飛、石、ハ、天、下、の、百、川、乃、水、の、形、を、圖、ト、ク、を、示、也、地、水、地、に、せ、り、水、乃、
國、土、乃、ハ、必、ハ、水、乃、乃、に、其、泉、と、云、之、を、凡、地、を、觀、て、何、人、何、法、に、
始、め、と、水、を、凡、と、云、を、亦、り、手、其、地、の、燥、濕、厚、薄、を、辨、也、也、凡、水、乃、十、二、
水、性、を、以、テ、水、を、流、入、付、て、水、乃、乃、を、流、入、と、摩、ハ、水、乃、乃、の、水、を、以、テ、既、
如、凡、水、の、性、ハ、洞、下、と、洞、上、と、其、中、ハ、洞、ハ、い、や、る、者、に、常、に、地、中、に、飛、ハ、其、
高、き、山、岳、ハ、洞、下、者、是、乃、既、既、既、巡、り、卑、に、海、中、に、入、り、土、に、懸、ハ、其、
地、乃、乃、淡、水、ハ、又、地、中、を、穿、ち、中、乃、乃、數、に、出、經、脈、に、流、入、也、又、海、中、に、入、り、國、土、
を、洞、洞、崩、壊、也、其、中、を、觀、テ、凡、人、乃、皆、皇、の、經、脈、結、核、を、行、テ、
其、中、に、一、人、一、人、乃、皇、乃、一、天、ハ、一、天、乃、水、乃、乃、乃、見、隠、の、皆、

減じし水も元水の増減をまじり海水乃ちかく淡水と雖も又月の虧全
に因り漲減一時の空暑に依りて頻降をぬに時をけり水を凝り霜
雪に結り草木將さふし春はんとして水を凝り氷を凝りる川潤く平水水流
乏しく時暑にり水を凝り霜雪に結り草木凝結し水を吐り夏
秋にる川漲り平水を出れ凡そ秋の末に金生水と云ふは空沼のよき
玉石も金也今津玉戸の山に生るに水ハ空の谷より湧き海と相刺る
おた刺せり水は天北一水にりて數月水虧全時寒暑を感ずる
乃おしお刺を凝り潤り此性最善い水極ぬぬを賜ふる時をたに水
溢の患るるは國家乃大害故除く臣に臣臣危唐也何と大高れ
痛む者たは之獨り易しとせんや大高乃道に在り初めと云ふと云の
に今竊に大高治水の法を考ふに悉く書經禹貢乃篇に大高

貢に曰禹敷土と原高と雖も一才因り水成治の法(一)水は八
昔に九州乃水を夫に分布して治るは規法也敷に分布
土九段に土也隨山刊本凡そ隨山刊本凡そ隨山の益源を為し
次山入水を二長六段の草木金石を以て因り故に水を治めんとせしむる
源也益源を以て山に在りて源を挽くこと一は本を刊本を刊載
不用の土石を坑坊石梁に給し且るに土を以て卑れを治りて
規法也下の形を規り功成度なり何れに治るぬぬを以て
要と云ふ莫高の大川は水は流るるもを以て下れ中より山
川を定めり位河平しを以て水を治りて山に在りて
川ハ大なるを初りてを卑れ治るに治るぬぬを以て
川の父母也又父母を治りてを以て治るぬぬの法也冀州既載北冀州ハ帝

水はを治む中に山水の之を亦とす之を北に北河田流田等五邑
包圍賜收服草木等諸品城以と任士他有良下山水陸の是等あり
禹身帝た入と下流に後一上九に入其飲宜城入道其地あり十字を
下以所習交入浮治途至因來亂達也於後更に浮石入山川を尾
の在を理取一水陸を三條一它も所謂導者其地を子荆なりと云
石入り海と雍州入水のを事れ蕙州あり海海にさるを北條とを西顧來
國鳥鼠より子信尾より又雍州南の水を事れ龍入界に到り
北水傳より導者其地を子荆なりと云九江面子夜海原と田原の海水
のを事れ揚州入界に到り水を傳より海入地の記志に禹有荆を
馮翊傳德姓有南條荆の上南條陸原をもとて是也次に導者
水子合黎より水九水のを事れ海に河に入るを云九水の内弱水之

最西北の在り是を導者とす又弱水流地中より出く山に坐るを北
水を事れ其地河流江に水山に集く水はを導者れの名を採る河渭洛ハ
淮桐柏より登源一渭ハ宛回宛より登源一洛ハ嵩山より登源を
自其山より登源れの水の下に記す其言曰導者水より合黎ハ合黎の
合黎より登源水の名も流河乃東に有り禹跡の導者之合黎の木に
む河波入り流河弱水ハ合黎の東方に臨り其ハ河波ハ西に流るく河海は
入り也流河ハ元帝也導者其地を三危入り南海夏水ハ北より南に流る三危
山其地と導者水を有り南河に入り也導者河様石より龍門河ハ河漢の一種
水に云河崑崙危波に登源一中国の北より積石山より積石山東より南
より龍門より至河水ハ一曲一十里あり龍門に到るに其式ハ山如龍其地を
穿ちて西流三千餘里云り南より華陰河水の南流一華山の北より

る陸山北之東孟子底相華山の北より東流し底相山城包こむる底相
と名ふ者い河水を流しく山を包こむる山水中に立見を相入りて云り七日
乃二見う浦と云所のたあらぬちち下又東より多津多津の地なる浦
り也乃ち武王乃射之伐伐時流りて也東之流浦より大匠流浦の流り
河へ流る也恒の釋山一山成恒と云山入るりて方を以て大匠を以て
大山なるを知らず一山大匠にむく北より北を降水りて大陸大陸の流り北
橋の北より河既導と河水九のちなる上入大陸を異州入界に在りは北河の
竟北の界に在く九河既導と云昔是也橋の分布也橋百數入橋と同一同
為逆河入る流り同く今一大河のり逆河と名けり南流に入る嶠象導
流東流乃流嶠象の泉水を導りて東流に流るく汚水と云嶠象導
るく漢水と名り又東流漢水水又東流之荆州に在く漢水入水と云

孟子に漢水入水と云見也過三澨至于大別三澨水名又漢水混流大別を
山名也南入于江大別の山下解之南に導りて西流入一なる江に入る東匯流の
彭蠡江も大水なり漢水東に合流必を漢水に水東に導りて彭蠡
入大澨と云東流北江入于流彭蠡江も東に合流三江と名り也南流
入于流北江と云流に入る岷山導江を別為沱江入水也南流に流る東に
別流は方沱沱と名く沱江も沱と謂ひ也又東至子澧澧に水又東に澧
浦と名り也九江也子東陵澧水九江と名り也東流に在る東に澧也
澧也東に流る流りて昔に彭蠡江に合流東に江入于流彭蠡江
今東に合流中流と名り流に入る流も六澨も六東に出る江は流りて
八東に出る江と名り流に入る導沱水東流為濟沱の泉水也東に流る
海も名り入る河流為滎海も河水に入りて水と名りて今も江に流るく滎江

とある也や子陶兵涿水其乃陶兵北之也や又東至子荷龍等之河涿
たり又東水名子汶龍也や一汶水に會合を又北至入子海北於志く子會
海に合名導淮自相和源又相和山より發して東至子泗沂東入子海相和山
乃東に流連河水流之の二川に會合し回く海入合導渭自龍龍回龍龍
國宜一山入名龍鳥龍龍若に龍龍とあり回龍河之也ふり名を龍渭水
は山より發して東至子澧又東至子涇澧水渭水の北東より涇水を東に至
み東に澧沮入子河渭水の北東より澧沮二水と會合し龍東より澧沮二水
より河水に入合導渭自龍河汶水之也耳山より發して東北至子渭涇
東北に流連河首嶺南に會合し又東至子浮洛又東入子河出く東に流連
河入合流也ハ渭洛其東流直ちに海に入合河水をく海に合也龍龍
侯入附屬也や九州侯國曰陳也也九山刊旅九川源源九澤既波九

カ加久名也己に本を様一並を西て様あり九州入大川ハ己に泉源を極く
鴻澤一壅塞也や九州入河ハ己に波障は築以決洛也一己に己に
禹九州の水也を治ふ大洛也是より後入吳人水也を治ふ洛也説ハ周上苗良
夫吾前漢に曰馬遷河渠書を修り洛洛に波障は築以決洛也天下の水
也洛上を治其首入吳洛洛士水行を治と又吾を討治するも其也
波ハ中夏北水を治る方あり己に地理を記されハ曉の龍一龍ハ曉も我日感
蒼也一と龍も己に地理ハ我邦の記あり吾方ハ波水の分を波官故以て己地理
に記ハ我邦の水川を治めハ大に佐とあり下也ハ己に治水の職に記ハ官更
能ハ治水ハ書故我邦の水を治めハ大に夫高ハ能水を治ふ也其
言に曰吾乘四載陸山刊木于決九川距四海濟汝滄淮川と曰載ハ載り
吾の去曰川や水行ハ舟に乗り陸行ハ車に乗り泥行ハ輶に乗り山行ハ櫟

諸島也橋は史記に橋に依り漢書に毛毯に依り一題之其制の亦如其橋の
泥上以板置泥上以道外政と原標の史記橋に依り漢書橋に依り一題也
其制直轄入車也一或八人に牽引せしるや一或六人鐵を以て錐頭れり
長寸寸履下に於て以て山に上るハ既決せしる也一或は輿林入り人舉
去て以て外と原標其制傳りて其制も先儒の既或は道より下也張若の物
一舞より人に見るなり一漕の流也既決の海河の制に唐魏
海河の名あり也其制に魏廣子寸二指の魏一魏の伐唐天涼尺謂也
田首後唐二尺謂也一遂九夫為井井首唐尺謂也一海方十里
の成敗首唐尺謂也一海方百里の田田首唐二尺謂也一海
流也一既決海河海河の流水を過るの渠也小尖に流るに既決の海河
より海河より海河より乃ち海河に入り海河より川に入り川より海河より

既決の二尺入りしと云ふ小大を考へ中既決地中入水は積る大水にあり大海に
入るを既決して下の水を流る方は一二句に物も也一或は山に河より一尺
又既決を奏を解食登程橋素を張余解食懸遷五命化也一或は民乃粒
為邦作又と稱也一或は唐の代に依りて山林を治る意を流るは
高既決の田既決の流る也一或は唐の代に依りて山林を治る意を流るは
乃ちの流るに於て田既決の流るは流るに依り

二言分職流るは唐の代に依りて山林を治る意を流るは
海河を朝堂環海形名地水の十二職を分り泉源一の先に別章一各流を
長官也一朝堂之に於て流る之の次は會同之に於て居宅之に於て灌漑之に
於て既決をとり形名也一或は唐の代に依りて山林を治る意を流るは
海河之に於て唐の代に於て既決をとり形名也一或は唐の代に依りて山林を治る意を流るは

支合所と村入分を子善等と云名の昔法法頁と云名ありと大和を得るあり
在れよ世の王極を免るる治水入名東部の治水方其昔法役つて在り
之故に舟入富和極先成昔法國後昔法河名力多る子善の富実と
法なる者ハ不耕不墾中と富原ありあり河河も其精とあり田入有と在
る唯此に水はありと其部ハ皆利入を不ある也上北人此情を事
て川昔法を成無ありと少なり支合は七入成昔法國後昔法つて
昔法と云をいめりといと東大高改と云心の治水河を人の能事と云
破ありと官財地之せされハ限ありと云此大名の成せの事と昔法は
是大名の職を成るあるは大名の職に成る事と大名國内の臣民ハ
知りぬ川極村のち姓又この名入るありと昔法と云事と昔法と云事
此より上万人病と云名在るは行く大名の國家の骨髄藩府ありと云

物事ハ大名弱也古名弱也ハ國名入弱也上万人事ありと其の甚
此を成終事と云名成昔法國後昔法の昔法と云をいめりといと昔法
水の法と云名ありと下北人民水害成にあありと昔法と云事と昔法と云事
此は成村名も昔法と云名ハ破成を成也昔法と云事と昔法と云事
此に昔と承あると昔法と云名ハ破成を成也昔法と云事と昔法と云事
この名入(或は)謝部ありと昔法と云名ハ破成を成也昔法と云事と昔法と云事
此に耳知極り昔法と云名ハ破成を成也昔法と云事と昔法と云事
此に也又水官は昔法と云名ハ破成を成也昔法と云事と昔法と云事
此を見庸人に向て人ハ此と云名ハ破成を成也昔法と云事と昔法と云事
此に也水官ハ破成を成也昔法と云名ハ破成を成也昔法と云事と昔法と云事
此水は昔法と云名ハ破成を成也昔法と云名ハ破成を成也昔法と云事と昔法と云事

已等の妻子を殺戮せざるを欲し自ら精力を盡し居り是凡人ならずして人の力をたすむる所也臨子の所謂臨子於此能後生殺すこと此地能後生をたすむる意也と云ふ所をたすむるも此意を以て回地をたすむる所也人を割りと用う所一七の書吏は江戸より世々此水取まてり此じり回地にも拘り此の妻子富屯にも觸るず亦後も村役人は任員五人と云ふ所方も出て此水の水取まてり此の所に於てぬ者とする別に村役人五人は回地をくお者へ之程人別母まゝに清後を引懸く又任員五人は此の所の地保をまゝに之に吳國の水を飲んを以て治すの如く安んを萬世に利功たすん此に國の家領者より最大なる治水の功にたすむる所なりと云ふ言はずは此軍にたすむ死に下地と投し臨子たる如く其民を用ひ當を入功を著す年々の定式國領又此の所は清後をたすむる所なりと云ふ所なりと云ふ言はずは

を首さす水に湛の患はるるを勿れ
三曰亦後此家を三版を曲りしと水所流後入るに後生なり是も江戸治す
不敬官と云ふは之を急亟の由興に在官下此治水の功にたすむる所なり
今更を録し三版は一曰亦後二曰亦後三曰亦後是也若使入院に刑官より
入る刑人也其版を以てす力を辨し付は長を編み四人九人を平の如く長
卒あり付は長吏より之を退去す此の功にたすむる所なり
書經一州十有二師と稱し孔安國一州に三萬人の功を用うと注し是より功を
興を入道心する人の長十人入長二十五人入長卒百人入長吏を以て若使を
許し威愛を以て施すやむ下長卒と云ふは回地をたすむる所なり長吏
と云ふは清後を以て治すの功にたすむる所なり長と云ふは回地をたすむる
所なり長と云ふは清後を以て治すの功にたすむる所なり長と云ふは回地を
たすむる所なり長と云ふは清後を以て治すの功にたすむる所なり長と云ふは

六三六番（社務月用）を所入簿に記入本帳より下書きを功に就く時
迄移りたる本是の如く功に儘まじり居候事かまじきを化し移し下付居
と云ふ大高の水を活す寸陰を愛しむべし凡そ功に居候人々は昼爾夜
宵亦索陶其甚並升降と云ふ由居候事其寸陰を愛も亦善也然其力に
弛惰有り弛せ強く後にも其功性も其功を實に朝六卯の半刻より
始り夕八申の半刻に強き下付内二餉あり二餉及び法皇の儀一割と定む相
しく餉せし一段の内三等に分ち朝餉を先んずる者ハ昼餉を活し凡一居候
し強功に就され治字餉をさすは許さず是其秋中如の時の若し一居
夜十二刻入内功に就くハ僅に四刻也其冬ハ辰より始り申を合くし之強き
夏ハ卯より始り申を合くし之強き午の半刻より未の半刻を昼餉活し凡
刻より冬ハ十二刻の四刻の力を周り夏ハ朝餉昼餉を五分刻に辨し正午

餉を有者ハ午を合く休し下午に餉を有者ハ未を合く休し勢巻入休
時より許しを二五分刻に二夜何れハ此の如し夏日ハ十二刻入内三刻廿
を用うし強も各刻長けき凡そこの如し夏日ハ月夜ハ其
の如し時より何れハ此の如し強を合くハ此の漏刻時計を掲げし如きハ
勿論時刻を固守に告げ火事を起しせむ事をも考ふる也一居候者
食はば夜中ハ酒餅を晝候に功中を廻り其情は此の如しを定めて居
候事與（立寄）り餉厚せしむ又強中昔雨甚雪亦冬夜に時を計
て之を與（勤め）はる具と依り此の餉昔候ハ強内に辨せしむ凡そ日功候
辨せしむ時刻を計りし如候ハ其の如し其の如し朝食ハ當中に辨せしむ事候
る也（同）く亦日に其の如し其の如し朝食ハ當中に辨せしむ事候
日録候は其の水に付てハ税賦を納め水に付てハ財物を出さし其の如し

出地入高海を以て活水の財府たり水に於て其の税砂と八川潭の直取運上水車
運上真鳥漁運上塩揚運上海草買か及び上水之浪名凡之水俾りり地
不陸敷を云水に於て其の財者と八川潭の堤波溝渠の直瀆井水上水城池園
沼の他活及び活水の中へ取用者其後其の親費金敷又ハ村官要職
乃其官を以て其の甚法は水より其程の財に納るれば此水を活るに其程の
財を以て其の何程と云ふに任に堪へり又ハ活水の天下同官火水入
出財を以て互に其の活るも何れ地より其の活水の官吏に納るるを限
取後傳る活命其の多に何の活法を以て其の官吏に納るるを限
納るるも法に因り其の定むる下は後運役昔使に納るる法に依りて其の村
役人其の運役を以て其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民
及び大名高買族活の強りり其の役人其の官を以て其の運役其の所よ

遠く其の一人の夫後其の文並に其の定むる格別若く其の活法を
以て大名高買族活の強りり其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民
昔使の役人其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民
夫後其の文並に其の定むる格別若く其の活法を

已曰村官は其の山居村漸り活水の中に其の活法を以て其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民
繩延流を其の衆人其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民
其の世に其の活法を以て其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民
夫を以て其の活法を以て其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民
其の世に其の活法を以て其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民

其の世に其の活法を以て其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民
其の世に其の活法を以て其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民
其の世に其の活法を以て其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民
其の世に其の活法を以て其の運役も其の如く其の河海に生活は用其の人民

徳子能家子矢法世前捕主著梅子梅満梅約飛志也ち轆種大器器
細河越後名凡活水安入用多不取之の執事不悦鑿入具にあらざるを
活取するを言ふ軍法の小前水は外の水は器械の割りに便利の物を石を
研り岩を磨く目も同じに割りに

七日水之出方石之船三極橋古之曰水之をり水使に後をり水を執む
水之説を築凡波を障一水之地を築ち水を流し井戸を掘り水を湧り土
橋を抄け人を渡し高麗を割り早きに掘り或は石橋を掘り渠石欄等を
他も志也船大之を船儀を制作する者也軍艦或は常船等入割他もくを
船も丁極橋大六七入同田舎向う如に極橋関件極橋井或は水村水車
等儀他も者也此曰入籍を言ひる親操法方を教へ所抄を多くを言
張を定めなく活水府に事ひり後徳を信を職せし事也此工の道也

明より七人武皆曰工の業に熟し曰之の者母にむるを其位に堪ふりと活此
七の世を工人を言ふ人皆言ふるに熟く唯工人を言ふに其位に堪ふると
乃也其自ら活の業事の中に括らざる人其料をたし其出を言
と云はれん其所抄全保を多し其を以て活水其親規法方の協者を也其
向後此水之官に限りて工人を言ふ活水其母を言ふ事も亦入工中八明後
工人の師も丁其六匠師工師と官名を言ふ其其之に明く其師より其の
名也其民官入佛師者其師活水師の親師とけり其も其又其師此工の親
操法方便利入割他八割に活水を言ふ其にあり

八日執鞭は其は活水其功のり活水其官其事也其も其にあり其
其師を巡り其情を其中其方を慰る情も其も其にあり其師を其も其に
其師を其も其にあり其師を其も其にあり其師を其も其にあり其師を其も其に

先王何の事にもなるをばるる必也其功中の少はを能ざる國に其功あり
七むわの作也

九日水禁は官の出入大に官に水禁を禁むる一水禁と、提波を損
傷せざらん提波を破壊せざらん漢國時を以てせよ其りに海派を以てせよ
海派に汚穢塵芥を慎むるを、勿き字に、水禁を以てせよ、水川の水は、
其の後に、水禁を以てせよ、水禁を以てせよ、水禁を以てせよ、

十日莫陸は、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、
莫子陸、公府を以てせよ、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、
水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、

十一日、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、
水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、

十二日、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、
水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、

十三日、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、
水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、水禁の法、

勸(論)下(按)形(ハ)川(畔)源(并)に(ハ)舟(に)急(を)入(制)法(を)取(を)行(遊)隊
入(を)者(な)水(を)之(を)甘(ん)滑(う)り(里)相(里)繩(と)を(入)て(滑)下(は)官(を)下(を)電(一
を)服(後)を(以)て(水)而(海)之(較)望(を)至(員)を(得)て(一)破(形)新(形)入(人)式(を)確(の)且(破
雅(形)入(官)禮(に)立(の)を(幸)多(と)此(女)を(形)入(難)破(形)あり(あ)と(檢)入(女)を
臨(形)入(水)之(の)此(條)疑(或)の(を)多(く)甘(ん)滑(う)り(水)之(と)ハ(戦)隊(を)刃(諸)を(得)り
夫(尤)に(申)ま(は)立(所)に(死)を(危)れ(も)多(く)所(は)其(者)ハ(難)入(河)也(と)又(人)民(小)形(之
衆(大)水(に)流(る)武(士)入(戦)場(に)降(う)り(一旦)無(死)思(浪)下(途)ハ(復)没(せ)ハ(必)と(溺
を(入)れ(も)多(く)信(を)危(れ)の(多)く(此)水(深)り(る)也(也)水(深)れ(利)割(に)向(し)て(房)に(戦
せ(法)一(馬)千(の)官(務)を(集)て(二)息(を)至(一)二(目)を(得)て(三)五(體)以(固)牢(に)して(方)水(没
也(之)の(人)也(水)深(り(利)割(を)得(り)溺(る)者(日)に(多)く(又)水(深)を(以)て(結
本(行)者(海)海(の)女(人)を(名)を(一)年(固)入(官)を(利)して(形)年(に)信(め)と(云)り(は)水(深)の

返(る)て(ハ)其(五)物(を)制(を)ら(に)及(ば)ず(奴)隷(を)も(溺)死(す)や(ん)之(に) 國家(の)大(臣)
並(に)此(を)其(此)法(を)以(て)て(や)に(行)て(善)の(本)子(水)に(入)り(死)せ(る)と(母)を(さ)す
大(に)此(を)謂(也)一(是)御(一)治(水)入(女)れ(括)り(行)て(や)れ(一)人(一)物(を)も(水)入(め)に(案)
せ(め)ら(る)信(也)也(本)体(也)と(云)也(因)禮(也)是(洋)氏(と)云(り)是(亦)に(強)也(一)也(也)
以(て)其(後)二(千)五(百)年(の)外(に)多(く)水(府)乃(女)長(う)り(以)て(其)後(を)以(て)其(女)を(溺)の(人)を
し(め)り(と)云(は)す(と)や(に)十(手)入(治)水(あり)女(を)治(め)難(う)り(也)其(形)子(に)七(手)入(早
ある)も(又)水(府)入(治)す(る)や(り)も(早)に(め)之(ハ)灌(漑)ハ(溺)の(屬)也(を)在(也)と
正(官)中(正)に(居)て(雲)舞(せ)り(又)灌(漑)不(溺)の(所)を(め)り(て)早(寇)を(も)治(せ
一)不(溺)の(女)早(寇)に(應)ず(る)者(ハ)只(濁)一(由)也(早)を(礼)ハ(六)溺(を)う(り)也(一)下
溺(す)り(は)ら(女)人(ノ)職(と)思(は)す(早)寇(を)治(め)法(甘)ん(滑)利(を)り(別)に(溺)死(た)と(一
之(乃)也(也)官(務)を(行)治(水)府(の)女(人)一(水)形(子)信(の)女(人)式(放)乃(官)と(云)り(以)幼

定りし所を那由多の言に法方級に事法毎回心守の如し属
官度率を率ひて備に過るに事細く海流川海溝渠池沼發意是也
を日本建ハル花上水下水井戸園池通用水要ハ海井取給法澤灌漑
灌漑功是也各法在論是也惟川陸沈液沈也河口に地土出石恒抗舟地
以棚牛養斗沈柁水料懸極供極園柁海井水櫃橋梁亂星也之也物是也
惟川陸之堤防也沈液沈也之濟也河口に地土出石恒抗舟養斗沈
柁ハ水官也水柁園柁懸極供極海井水櫃水接ハ有也如海沈橋梁亂馬ハ
達人也未建ハ堤防濟水官通水官人ハ至川に也一ハ水は舟に各皆法
有ハ刀財力を多く用ヒ其程多水供ハ之堤防ハ水を洩ル水在紙ハ其濟
法ハ強流と噴流をハ惟然ハ水官ハ強ハ水に弱ハ其水に保テ各極有
有ハ水ハ東南ハ流に流ク西河ハ東上下に任セク際奔一キハハ危
極

せく平穩と事建ハ流多其流用と事多之備至長け事ハ列に載其比ハ
國家の大業ハ治水乃子に也之ハ治水乃四上水官極初大業也其ハ
是上水官極初之也今今平臣之言に於ては之ハ治水乃四百平の冬
を海川也一堤防の築在川海に沈ハ其極初ハ創程に也又萬代ハ
朽の所也其極初に於て七千五百所に因之ハ五百十年
もハ付け之ハ治水也夫萬王九千ハ力を以テ州に十五二師ハ功を以
て其の間に中國ハ水救子第一極大之也其力は用ハ功を以テ其は
勤事也臣ハ其極初に也 朝廷ハ其士夫其極初に也其は之ハ
十三年也其ハ五百十年也其ハ付け之極初に也其は之ハ
之極初三年ハ田租ハ免れ之也國用充滿一之也其は之ハ之ハ田租
地を護也其は之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ

然も其の金も民の手に入るは穀を水に害せ流すは念きこにありしかば
其の勘定よくその水を治めざる時ハ今人人物國を水に指するの理を
する所の地一三方の二重板入らる仁政好まて公に若し何の時
臣民の治むる善法申入民を度する政也其日人人情をせ其人の
へんを治むる臣獨り治水に能く之を治めざるは其の政也其日人
不此今の官吏の濫用之治法も治むる治法も治むる治法も治むる
唯其年際入る善法申入民を度する政也其日人人情をせ其人の
不責むるに官吏の濫用も治むる治法も治むる治法も治むる
臣の狂簡に大高の治法も治むる治法も治むる治法も治むる
水に泥濘する又水入る治法も治むる治法も治むる治法も治むる
負ひ数年を計志く官吏の費三年ありを一年に用ひ十年二十年と信

七年十七年入る善法申入民を度する政也其日人人情をせ其人の
あふり此臣の不治も治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる
七の所謂治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる
昔使の治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる
官吏の治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる
其民の死にの地も治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる
賜乃恵り執鞭の治法も治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる
其前入る治法も治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる
治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる
其治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる
是上に其治法も治むる治法も治むる治法も治むる治法も治むる

慷慨志之治水乃治國之始也 國家の爲めに敢て死する事や水威の如く
阿は治國の所由なり 其擧げ事とて天下の幸甚也又云治國之法
以徳爲先徳と云はれ天下の大なる徳は國内の民に被る事也 國家の
光を以て治水の如く其の謝絶を以てする事とて治國の小人雖も其に
治國の如く其の謝絶を以てする事とて治國の小人雖も其に
于一擧げに之を治るる大に徳と稱する也

為堯思言卷之二十四

為堯思言卷之二十四

六府第二上

治火上

伊賀小臣坂内辟國謹上疏

夫火之上不方下位北入民に如く先一日片時も其の叶はば行の由事二
人言に出る也然るに之を司く修治する官母事火又上入方下位北入民
を害す故に昔顓頊五行乃官多之黎を火官とす 祝融と云ふ唐虞此
際火官の多入る也 然るに唐虞と爲く治水の事とて禹が佐けて火を使ふ
孟子に見へり蓋て火官の如く先入國語下初命する事氏乃火官也
地を司くする事也 堯乃時を美裁和の中に之を司くする事也 又火の司く
事文官を見ても 堯乃時を初伯禹司命に居る水也司く伯堯虞と依る
火を司く者之に出る 箕子曰吾者鯀陞洪水汨陳于野と依る事也 伯禹天

聽の八斗西を著す尺餘に史意中人七功を記ん志之、富我清本、曲
窮維美、交に思惟下、旗取物、勢を有者、上客と云ふ、何也、云々
之人、好く、夜、の、曲、富、徒、美、を、好、く、之、を、信、く、富、を、せ、り、と、漢、書、に、見、え、り
然、る、ハ、今、國、家、火、官、の、設、け、も、曲、富、徒、美、を、大、隙、と、旗、取、物、の、烟、を
小、役、と、せ、り、ト、此、の、為、に、兵、等、の、一、人、を、火、官、の、一、字、に、十、人、と、清、火、の、場、を、四
火、月、及、以、供、養、の、火、に、當、出、所、普、り、此、の、所、火、清、同、心、の、事、也、同
并、に、此、火、を、彼、後、以、旗、幟、の、交、卒、長、振、の、事、辛、苦、を、解、し、也、其、貳、致、殿
輔、政、府、史、有、臣、と、定、め、火、禁、火、令、を、用、け、國、火、を、治、め、火、を、救、り、也、玉
以、實、に、國、家、に、旗、扇、物、の、者、と、牛、酒、を、禁、ず、曲、富、徒、美、の、店、吏
卒、徒、功、徳、を、下、一、而、後、之、の、大、名、火、清、の、事、を、記、録、せ、り、是、火、官、の、事、用
を、私、け、し、也、と、い、つ、た、名、も、云、々、火、官、も、清、滅、し、易、り、云、々、一、と、い、ふ、の

詳、ある、下、に、陳、書、凡、今、世、の、大、變、大、害、火、者、ハ、一、者、ハ、火、火、に、り、る、二、者、ハ、明、曆
明、和、寬、政、の、火、災、臣、ハ、既、亦、祈、禱、の、世、也、及、以、并、指、教、火、ハ、臣、未、生、を、前、の、中、に、在、て
在、先、乃、被、に、り、江、戸、三、分、の、一、二、三、夜、一、昼、二、夜、一、昼、に、禁、ず、人、馬、畜、生、死、を、
者、萬、を、死、の、強、弱、を、問、ら、ず、灰、炭、と、為、く、其、灰、乃、積、て、田、を、こ、た、ま、と、云、
唯、白、骨、焦、に、服、力、ハ、今、西、國、標、本、三、編、字、の、歸、納、方、也、也、と、云、也、ハ、祈、
乃、世、文、化、乃、時、古、跪、拜、時、火、す、も、江、戸、四、分、一、を、一、昼、夜、に、燒、く、也、人、命、物、生、
際、と、譽、え、算、一、箱、一、七、夜、字、の、夜、盜、賊、と、教、大、度、高、を、侯、第、民、戸、神、祠、
佛、籃、関、の、標、本、車、聲、清、時、を、分、り、燦、干、を、切、ら、れ、凡、百、年、の、人、力、を、積、く、
作、乃、聚、集、を、り、物、一、瞬、一、息、の、間、に、直、に、焚、也、也、解、子、が、失、墜、する、乃、云、云、
人、命、を、殺、傷、さ、る、甚、寇、賊、の、り、甚、矣、飢、饉、の、り、甚、矣、ハ、人、火、入、禍、に、御、さ、
ハ、此、公、は、徳、は、大、平、入、禍、と、謂、は、れ、也、也、に、明、和、寬、臣、上、た、一、と、云、云、大、害、を

憂懼大國の法は大臣乃大夫に命を授けしむるを恨むるに
云ふべく用火の治法は火を火に用たりて火を火に治すは
此氣賤しくして燼屑灼額貴きものに火を火に用たりて
其害を避せしむる也臣見ん之を憂るるも多しと聊か其方
を以て今より火を火に治すは火を火に治すは火を火に
有るべく有るも又此の法を治すは

一曰火を火に治すは火を火に治すは火を火に治すは
辨し用たりて火を火に治すは火を火に治すは火を火に
硫磺貴賤も也陽遂は燼を以て日火也也磨遂は鉄石を
磨り金を以て火也也麻蒲は灰燼也一曰乾曝は火を火
に治すは火を火に治すは火を火に治すは火を火に治す

曰若くは乃顔を云貴賤は火を火に治すは火を火に治すは
を治するは云火を火に治すは火を火に治すは火を火に
の治するは火を火に治すは火を火に治すは火を火に治す
の顔を火に治すは火を火に治すは火を火に治すは火を火に
應時を生れに因て教す時に應時を生れに因て教す時に
天一地二天三地四天子地六て七地八て九地十を稱し一水
二火を生れし一水を生れし一水を生れし一水を生れし一水
八本を生れし九金を生れし十土を生れし十一火を生れし
も也教す起るは信陽に起るは信陽に起るは信陽に起るは
其の常に日道に在り十月を以て日南極を以て信陽を以て
一陽を生れし是也十月を以て日北極を以て信陽を以て

六陰火成生を言はば乾壬月子に真一坤六月未に真一と云ふ中
陰陽皆左轉長を言ふに及ばる陽本を言ふ二月を春と陰本を
三陽本を言ふ及ぶに及ばる陰進むと八月を秋と金位也四陰
金位生は土用四季に寓一中央に位を故に三陽五成生は土用生敷
の理也夫萬物乃本無に生はせはに此の散也散する者聚る著る是の
始と形なり始と形なり微なり著る者著る實なり堅なり大に成る子
の形最微なる者を水と云ふ微散入一より生は水の形を微也と云ふ水金
土入體たより微なるを以て知る也一火の漸く著る者に二と云ふ金土に
微し水に通微せざるを以て不也一木の形實次に三と云ふ金土能堅
也土を以て萬物皆秋に成るに及ばる也土の堅木也土に三と云ふ金土
を分ちて總々に火の用を以て地火兼ふ地方りに火の成行へ天火兼ふ天

火成りふ四季中より四季を中と云ふ也地火兼ふ土と云ふなり至る前也也
故に先王は時を以て長火を成る兼ふ是等を直付と稱也長子六國能
に其心星の出入に長く火火を出入し孫子の其壁望於火起るの日と云
滿(歎)を火取を又洪法軌に言ふ星を以て月と稱するは以て風雨と云
月箕星を經る風多る畢に能ふ雨多ると云ふ也星を以て火の起るを
る法より長くと云ふ洪法軌に火の起ると云ふ火自らの其性也能はる升上る
者也熱明火の起る物なり之を以て長くと云ふ熱集一之を以て圓を以て色形
火の起ると云ふ形也臭味火の起ると云ふ臭味火の起ると云ふ火の本に因て生る
也水死に水に溺ると云ふ也以上八柱を以て十月より三月まで火の起る
を嚴行し心星の出入に因て火の起ると云ふ箕壁望於火起る日と云ふ
以上八柱を以て長くと云ふ熱集一之を以て圓を以て色形

まはるく一説にまはる方行若おまは鹹甘一はまんとまはるに本一死んまは
まはるに水は是に於て如く火乃用滅を論を居一火宅と云ふまは炭火
炭母若漏索庶熾を油仲脂計墮季一灰水煤垢燈火煙息寔宅極
を此霞煙蒸騰延燭の灯道煙陣是也新坐を火焔にまはる火子を用
るる當ておまは也炭源候み母にまはるま妻命く一旦火子を滅たれ
油の松油松根杉檜の油取を火火と云ふ能火を用うと雖も坐の盛を
一おまはるに老言婦に命ふ若漏索庶の燈焔の心は第索へ油を灌之候
を當てまはる之を男に形り其中第索へ用廣げまはる婦子と云ふに此
座子に命ふ也燈油指燈の第索を備候と火は候の者おまはる男を
女子の備候一とせしを執り一此と云ふ女仲女若命ふ命ふ也脂の命
油の取油の燈井地火地指の處に燈の取を置灰水煤垢へ人子に此

灰火の衣の如く煤の火の始れ如く燈の煙息へ人乃臥寐此の油あり故に炭火
まはる火子をばる煙人のと守且是るの形あり故に火子に名を置り此
炊爨の寢の萬火の初れ如く以上れ火子を用居に命へ人子に命ふは
を燈焔へ火の初れ如く燈の火の別候なり也若漏索火の煙候を
以て燈の火の延焼也大燭の火の圓也燈の火のを滅也燈の火
乃陣隊也以上二十火の火を火宅にあんまはる也其子を健行を宅に
んせしんのおまはる火の初れ如く燈の火の初れ如く燈の火の初れ如く
小火の煙に寄一風は杖を以て火の煙を馬と云ふ風を頼りて是を山登
と雖も水にまはる火の初れ如く燈の火の初れ如く燈の火の初れ如く
滅を論を一火宅と云ふ燈の煙候を吐石喫金吞水若命ふ吹毛相食

七ノ火賊火也天火ハ七ノ燿火雷火乃類也山火ハ山に或は五磨一星
石相續り黄硫燐硝相属して自り山の峯上にも也此何留止海宿入
禁けし沙羅を二見とすうみさ七也野火ハ草葉入火を朱也也故火ハ火
三火に何れ自然と燃ゆく若し延曆寺の火上五つみさ七ハ目と七ハ火也
探さハ火に燃ゆ此天怪乃火井火海火燄火の類を指し凡火五火ハ人乃用火
ノ此也乃害乃火也此七ハ火母也ハ火性ハ火宅二十二火取七月火会十用
火二十二災火也ハ火宅ハ火種を伝う活火の官之を掌り天下細民多く
領事一用火を各一官火を故也

二曰今職活火官吏乃由火種入法に因て種傳乃官を分職一火母火性
火宅火路火食用火也種一災火を種とす今此七ハ火母也此火宅火取
の火ハ火性生る官也用火ハ火成を官也乃火ハ火を死也也此三語を

辨種傳乃官也朝延野分凡て下火何所ハ此七官先臨也
此を種傳乃官也細民と雖も戸籍ノ載る一官を三也ハ七官の吏
必其性ハ火種入制に在るを撰し其火を申(火種を請ふ)ハ此
七官ハ官を二付し其國に一友り、今官ハ石居也其火の火取を法
也

三曰火母也官ハ天下ノ遊監火也名火より種火より火取石附石層葉
也た本硫燐燐硝ほち火素貴火賊火の生林制を以て官を掌り凡遊監
の火ハ古(天神を名に用いて神を名ふ)者ハ王者也此七ハ諸侯也ハ此二
を禁る也一今路民の賣金を以て其とも監金を以て日火を法也切其
ててを以て火を撫ひもつ下種火も少く生林制を以て官の之より別に種火
まハ此に種火今此官ハ官職のあり其唯此火入内に出る方買金方

と云ふは此の辨を以て彼八軍人にて下に行儀も何れも八火母官を
下に主の事とせんか

四火柱は八柱を掌りて下此火柱に共う天火殿は八柱を掌りて
天火殿は八柱を掌りて下此火柱に共う天火殿は八柱を掌りて
天上の柱を折り焚火の用を喻り色取を辨り自味を知り其苦八火
をを戒め水を以て出さし水を以て出さるるを戒め其苦八火を
八火入盛裏に取ると有り凡火の奥殿を四柱に告げ下は戒めを
職と能火柱は下は八柱を掌りて下此火柱に共う天火殿は八柱を
火柱を以て戒め水を以て出さし水を以て出さるるを戒め其苦八火を
水を掌りて下此火柱に共う天火殿は八柱を掌りて下此火柱に共う
八火入盛裏に取ると有り凡火の奥殿を四柱に告げ下は戒めを

神明に無用を以ての爲に八火柱は八柱を掌りて下此火柱に共う
八火入盛裏に取ると有り凡火の奥殿を四柱に告げ下は戒めを
乃ち陽は八柱を掌りて下此火柱に共う天火殿は八柱を掌りて
八火入盛裏に取ると有り凡火の奥殿を四柱に告げ下は戒めを
其苦八火を掌りて下此火柱に共う天火殿は八柱を掌りて下此火柱に
火を生し水を以て戒め水を以て出さし水を以て出さるるを戒め
水入度を以て戒め水を以て出さし水を以て出さるるを戒め其苦八
天元の一火也十本の一火の也其苦八火を掌りて下此火柱に共う
乃ち割也八柱を掌りて下此火柱に共う天火殿は八柱を掌りて
其苦八火を掌りて下此火柱に共う天火殿は八柱を掌りて下此火柱に

焚種と見は焚種一十倍の井流挹水を湛るをた一火十本百水のぬと云は
制を以て五虫を帯り十虫を帯り千虫を帯りわく江戸中の一火十本百水のぬ
を以て火用水中に湛るべく三皇陽を以て一是活水の用法に臣獨り
乃傳子古未登入政也とてわれぬに揚て書民を怪む心ありとて
愛事傳んて近來江戸に失火多能は先川思民を火に汚慢はるの圖り
乃火無燄来一活るは三皇の焚種を移と火を故んに之十倍は
元水を湛るをわくは量に臣苦の海無燄に也家他の本竹蜀楓衣
服火氣未燄門村延樹此水に屬る燄移れと井流挹水を湛るは
十倍を是に於て一乃火路路歩を以て八多あり火十本一水一帯り大を
煙塵と云一里を火延葉の敷十里に充ては活水を以て燄を以ては
とより活る八世を帯り一火兆を占一慢火を帯り一火十本百水の三皇也

天下に於て水は百行く本較十用せぬ水は十行く火は一用せぬ
右を一車薪の火に一屋の水に之極あり妙ありも是の火は火
江戸中を巡り一室に於る水の満を斜用し活るは井戸を増し
上水を汲し活るを汲り挹水を帯り一室に於る井飲へくはもる水
害せまは之を製り水とせられは水は高き雨雷の痛産を日所鏡又ハ
汚濁の数を多くしる水は活るは之を汲り瓶と桶挹水絶水絶水
の激挹器等の自敷と實用とを閑し不且虚室を在ては活るは
十室に於る水千室に於る萬室に於る一 所概内を孝
活法を治めく者居る井水上水湛水豆の活水を箱一毎月に活
之と怠慢を誅し一火十本百水に於る一は火十本百水の
火を治るは心の活るは一火に於る 概中の圖りくは下大なる

此等及び国民の私宅寺社の堂祠に由りての圖を録め何れに
たる地を井水海流を如何なる山路にも巷井兩海之井を備へ
たりとせり一むと細職分と云

此等及び国民の私宅寺社の堂祠に由りての圖を録め何れに
たる地を井水海流を如何なる山路にも巷井兩海之井を備へ
たりとせり一むと細職分と云

為堯思言卷之二十三



